

## 網中いづる

AMINAKA Izuru

イラストレーター。1968年宮城県生まれ。別府市在住。アパレル会社勤務を経て2002年にイラストレーターとして独立。エディトリアルを中心に、書籍装画や絵本、企業広告、店舗装飾、ファッションブランドへのデザイン提供など数多く手がける。1999年ペーター賞、2003年TIS公募プロ部門大賞、2007年講談社出版文化賞さしえ賞受賞。TIS会員。2012年に別府市へ移住し、都内アトリエと二拠点で活動する。2017年「CIAO！2017ようこそ上野の森へ」（大分市美術館）、「まちなかGO！アートみつきたい」（大分市美術館）に出展。大分県立芸術文化短期大学非常勤講師。

## 井川惺亮

IKAWA Seiryō

現代美術家。1944年内モンゴル生まれ。長崎県在住。モンゴルから引き揚げ後、愛媛県越智郡関前村で過ごす。ここで色彩溢れる島風景に感動。東京芸大大学院修了後仏国政府給費生として1975年渡仏。マルセイユ美術学校で絵画の単純化とロジカル性をクロード・ヴィアラ氏らから学ぶ。1979年帰国後個展を発表しながら、1984年から長崎大学にて後進の指導にあたる。地域と美術を結ぶ活動を行ないながら、落下した枝、使い古されたオブジェなどに着彩した作品なども発表。マルセイユ時代から作品タイトルは一様に「Peinture（絵画）」とし、時に壁面のない漂う空間に挑みつつインスタレーションを試みる。また壁に戻る作品へと向かい、その手法と表現の姿は変化し続けている。

## Olectronica

加藤亮（1984年大分市生まれ、大分市在住）と児玉順平（1984年熊本市生まれ、竹田市在住）による美術ユニット。2011年から「制作と生活」をテーマに大分県竹田市を拠点に活動を展開。作品制作のみならず、空間デザインや企画のプロデュースなど活動は多岐に渡る。多種多様に化する時代のすき間を埋める為、表現の手法にとらわれず模索を続けている。代表作は小さな木彫シリーズ「wood figure」、「風景への参道」等。2016年「特別展 CIAO！“進世代”の胎動」（大分市美術館）に出展。プロジェクト「TAKETA ART CULTURE」を手掛ける。

## Kana

美術家。1983年長崎県生まれ。別府市在住。主に布や毛糸を使った“柔らかい彫刻”ソフト・スカルプチュアの作品や、クレパス、オイルパステルなどで描く平面の作品など「かわいい」をテーマに日々制作と発表を続けている。2016年「特別展 CIAO！“進世代”の胎動」（大分市美術館）、2017年「まちなかGO！アートみつきたい」（大分市美術館）などに参加。わかりやすい美術を取り入れたワークショップが高評価を得て、年数十カ所で講師としても活動中。2018年度より大分市佐賀関の廃校となった旧・大志生木小学校アトリエを拠点とし、活動地域をこれまでの県内をはじめ国内全域国外へも拡げる予定。

## 川島茂雄

KAWASHIMA Shigeo

竹工作家。1958年東京都生まれ。別府市在住。1978年大分県別府職業訓練校に入校し、1年間竹工芸を学ぶ。卒業後、3年間、別府の岡崎竹邦齋に師事。1981年同校非常勤講師を務める。西部工芸展等に入選、入賞。1994年頃から竹の立体造形作品の制作に取り組み、割竹を紐で結束した大小の作品を国内外の個展や彫刻展で発表。1999年東京国際フォーラムで個展「NAN-O-TUBE」を開催。2001年頃からアメリカでの個展や現地制作を行なっている。2016年「まちなかアート遊園地」（大分市美術館）に出展。

**北村直登**

KITAMURA Naoto

画家。1979年福岡県生まれ。大分市在住。幼少期よりサッカー漬けの日々を過ごす。1995年ブラジルへ1年間サッカー留学後、大分県の高校へ。大学卒業後、路上で自作の絵の販売を始める。2005年頃から大分の美術展にて幾度となく入賞。2008年には海外のグループ展にも参加。2014年フジテレビドラマ『昼顔～平日午後3時の恋人たち～』に絵画提供し、オープニングや劇中に使われ、その名が全国区となった。2016年「特別展 CIAO！“進世代”の胎動」（大分市美術館）に出展。現在、大分をはじめ関東、関西、九州にて数々の展覧会を開催しながら、精力的に作品制作を行なっている。

**ザ・キャビンカンパニー**

THE CABIN COMPANY

阿部健太朗と吉岡紗希による2人組の絵本作家。ともに大分県生まれ。大分県由布市内にある廃校を制作拠点とし、絵本、立体造形、アニメーションなどさまざまな表現方法を使い、独自の世界観を生み出している。TURNER AWARD2010未来賞、第7回日本童画大賞準優秀賞受賞。2016年「特別展 CIAO！“進世代”の胎動」（大分市美術館）に出展。主な著書に『だいおういかのいかたろう』（鈴木出版／第20回日本絵本賞読者賞受賞）『しんごうきピコリ』（あかね書房／第23回日本絵本賞読者賞受賞）など他多数。

**汐月 顕**

SHIOTSUKI Ken

美術家。1960年大分県佐伯市生まれ。大分市在住。原寸大の戦闘機、都市の壁、仏像などを主なテーマとして、近年では現役漫画家とのコラボ制作も行ないながら美術の新しい表現を追求。2001年「第56回行動美術展」行動美術賞-大賞（東京）、2002年「第36回文化庁主催現代美術選抜展」（北海道）、2003年「第13回けんしん美術展」大賞（大分）、2014年「第23回 英展」佳作賞（福岡）、その他、個展、グループ展、受賞等多数。1998年大分県芸術復興会議の助成により海外研修派遣（渡欧）。現在、行動美術協会会員、大分県美術協会会員、新潮流展代表。大分県立芸術緑丘高校教諭。

**芝田知明**

SHIBATA Tomoaki

ステンレス職人。1971年大分県別府市生まれ。宇佐市在住。空調設備や配管工事の設計施工をしている親の仕事に幼い頃より興味を持ち、付き添って現場に行き手伝いをしていた。宇佐市の高校を卒業後、埼玉県へ就職。就職先で溶接などの技術を学び安心院へUターン。両親の仕事場を継ぎ、職場の中にステンレスアート工房を作った。いまは仕事の傍ら、ステンレスを加工しオブジェ等の制作に勤しんでいる。2017年「CIAO！2017ようこそ上野の森へ」（大分市美術館）、「まちなかGO！アートみつきたい」（大分市美術館）に出展。

**箕河原 淳**

SUGAHARA Jun

木工作家。1965年大分県生まれ。大分市在住。2003年より独学にて木のおもちゃ作りから木工を始め、現在 木の家具を中心にスプーンなどの小物から店舗リノベーション等、無垢の木を使うことをベースにさまざまな事に挑戦中。

**谷川 広人**  
TANIGAWA Hiroto

画家。1954年山口県生まれ。佐伯市在住。1976年より独学で油絵を描き始める。1984年より制作を止め約20年のブランクを経て個展、公募展、グループ展に出展し現在に至る。絵を描く傍ら、鉄や無垢材を使った店舗の照明や家具等のモノ創りなどで活動している。佐伯市にてタイトル『佐伯竜宮』 縦4.3メートル、横約70メートルの壁画を現在制作中。大分県美術協会会員、新潮流の协会会员、二紀会展出。

**西野 正将**  
NISHINO Masanobu

美術家・映像ディレクター。1982年大分県玖珠町生まれ。東京都在住。主な展覧会に2006年「アイドル！」(横浜美術館)、2008年「ピクニックあるいは回遊」(熊本市現代美術館)、2012年「群馬青年ビエンナーレ2012」(群馬県立近代美術館)、「中之条ビエンナーレ2015」(群馬)、「黄金町バザール2016-アジア的生活-」(横浜)、など他多数参加。

**蜷川 実花**  
NINAGAWA Mika

写真家・映画監督。1972年東京都生まれ。東京都在住。木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。映画『さくらん』(2007)、『ヘルタースケルター』(2012) 監督。2008年「蜷川実花展」が全国の美術館を巡回。2010年、Rizzoli N.Y.から写真集を出版、世界各国で話題に。2016年、台湾の現代美術館(MOCA Taipei)にて大規模な個展を開催し、同館の動員記録を大きく更新した。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事就任。

**松田 周作**  
MATSUDA Shusaku

建築家。1979年福岡県生まれ。大分市在住。西南学院高等学校卒業、熊本県立大学居住環境学科卒業、熊本県立大学大学院卒業。北川原温建築都市研究所研修生、SITE(代表 齊藤祐子氏)勤務、妹島和世建築設計事務所/SANAA研修生を経て、2012年松田周作建築設計事務所を設立。2015年～2018年「ARTPLAZA U\_40 建築家展」(アートプラザ)に出展。2018年「アートプラザ開館20周年記念アートプラザフェスタ2018」実行委員長。大分市中心市街地・府内五番街(若竹ビル)を拠点に、建築の設計・デザイン、および、家具の設計・デザインを行なっている。

**三浦 温**  
MIURA On

服飾デザイナー。1972年大分県別府市生まれ。別府市在住。大阪芸術大学建築学科を卒業後独学でファッションの道へ。2006年～2015年「上野の森アートフェスティバル」(大分市美術館中庭) 出展、2012年3月に別府永久劇場にてファッションショー「ホントの時間」を開催。同年、別府北高架商店街にアトリエ兼ショップをオープンし、その後もさまざまなテーマで屋内外でのファッションショー「ホントの時間」を精力的に展開。2017年「CIAO! 2017ようこそ上野の森へ」(大分市美術館) 出展。「まちなかGO! アートみつけたい」(大分市美術館) では大分県庁と大分県立美術館OPAMの建築としての背景を舞台にファッションとパフォーマンスによる独創的な世界観を表現。

## 宮崎勇次郎

MIYAZAKI Yujiro

背景絵師・現代美術家。1977年大分県大分市生まれ。東京都在住。2001年に東京造形大学美術I類を卒業。2005年「トーキョーワンダーウォール公募2005」トーキョーワンダーウォール大賞、2007年「VOCA展2007」（東京）、2013年「Look East! -Japanese Contemporary Art-」（ギルマンバラックス・シンガポール）、2015年「おおいたトイレナーレ2015」（大分）、2017年「アートのなぞなぞ -高橋コレクション展- 共振するか反発するか?」（静岡県立美術館）、2018年「大分図」（アートプラザ）など、国内外で作品を発表している。  
〔パブリックコレクション〕 大分市美術館

## 森 貴也

MORI Takaya

彫刻家。1981年熊本県玉名市生まれ。竹田市在住。2012年「第11回大分アジア彫刻展」（大分）で、作品《境界》が大分県出身在住作家初の大賞を受賞。2013年「第25回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」（山口）で宇部マテリアルズ賞を受賞。現在は大分市美術館の屋外に常設されている。2015年大分県芸術家海外派遣事業で渡米（ニューヨーク）、2017年「第72回行動展」で行動美術賞（最高賞）を受賞。自身の制作の傍ら、子どもたちに夢を持つことの素晴らしさを伝えるワークショップも好評で実施を続けている。主な作品のテーマは『境界』、『繋ぐ』。  
〔パブリックコレクション〕 大分市美術館 朝倉文夫記念館 豊後高田市長崎鼻

## 山本大補

YAMAMOTO Daisuke

画家。1978年大分県生まれ。大分市在住。小学生の頃から高校卒業まで地元の絵画教室に通い、本格的に美術を習う。高校生になり油絵を始め、大学では油絵を制作。別府大学文学部美学美術史学科実技コース卒業。別府大学大学院文学研究科文化財学専攻修了。2002年東大寺大仏開眼1250年記念の為に制作された木彫像《菩提僊那像》や2006年直島・八幡神社《随神像》修理・復元彩色の彩色助手を、別府大学教員・篠崎悠美子氏の下で行なう。2006年頃からアクリル画の制作を行ない県内外の公募展に出展を始める。2013年開催の行動大分作家展をきっかけに行動美術に参加を始める。2018年「第73回 行動展」新人賞受賞。

## ユキノ恭弘

YUKINO Yasuhiro

芸術家。1936年大分県大分市生まれ。大分市在住。小学生の頃から赤瀬川原平と親交があり、大分市立上野ヶ丘中学校時代には赤瀬川とともに、磯崎新や吉村益信らがキムラヤ画材店を拠点として結成した美術グループ「新世紀群」に出入りした。赤瀬川が尾辻克彦名義で執筆し、第5回野間文芸新人賞を受賞した私小説『雪野』は、そのころの2人の交友を綴ったものである。1955年に上京、武蔵野美術学校洋画科に入学、1959年に中退。いったん大分に帰郷するが、1970年に再度上京。以後、自らの活動を、芸術でもない、反芸術でもない「半芸術」と称して活動した。2001年からは郷里の大分に再び戻って活動を続けている。

## 芳賀健太

YOSHIGA Kenta

画家。1983年兵庫県生まれ。大分市在住。2005年大分県立芸術文化短期大学美術専攻科修了。2005年より空間ペインターを屋号として、「人の喜びをカタチに」をコンセプトに、紙やキャンバスに描くだけでなく、壁、床、車や芝生まで、あらゆるものに制作し、空間を彩る画家として活動している。2007年より個展・グループ展を大分、福岡、東京、NYなど毎年多数開催。2009年よりさまざまなミュージシャンとライブペイントを始める。2012年より3Dトリックアートを手掛ける。大分空港、大分県豊後大野市の全ての道の駅等。2015年よりクリエイター集団POOMPクリエイターズ代表。